第３回守谷市環境審議会
参考資料２

守谷市　環境教育に関するヒアリング結果　≪概要≫

●中学校で行われている環境教育について

・環境教育については、理科や社会科の授業の際に環境に関する話題が多く出てくることから、それに合わせて自然環境や生活環境の視点で、環境や興味を持ったテーマを総合学習の授業で深堀している。また、他教科（国語や英語等）でも環境に関するテーマが出てきた場合にそこを基点として調べる生徒もいる。

・中学生の場合は受験などがあるため、小学生の方が総合学習の時間を確保できる状況となっている。

・市教育委員会から各校に対して環境に関する取組を働きかけていない為、学校によっては総合学習の時間に福祉分野の教育を重視している学校もあり、各校での環境教育における取組には差がある。

●環境教育における情報発信の方法について

・デジタル化になる前は教室の掲示板へ貼りだし、誰もが見られる状況となっていたが、現在はデジタル化に伴い、掲示物が減少しているため、市の教育プラットフォームにアクセスした生徒のみがその情報を見られるという状況となっている。

・知識･技能を身につけてもらい、その知識を生かし、体験につなげることを意識した教育を行ってきたが、実際は、生徒たちが受け身となる状況となっている。

・市の方針は、環境教育における課題を、子どもたちが主体的に学ぶ環境を整備している。大きな学習テーマにより、生徒自身の知識欲を促すことにつながると思うので、今後の学習環境を整えていきたい。

●環境教育を実施するうえで参考としている資料について

・常総環境センター（廃棄物の中間処理施設）の施設見学を行っている。

・施設見学のほかに総合学習で講師を招いた出前講座も検討していたが、生徒ごとに学習テーマが異なる為、学年全体規模の出前講座を開催することが難しい。ただし、課題のテーマ設定を行う初期段階で、環境全般における授業であれば有効と考えられる。

・総合学習において福祉分野を選択した生徒に対しては、実体験を経験してもらうために市と連携する場合はあるが、環境分野における学習はインターネットや文献調査を主として実施していくことが多いため、行政との連携は少ない。

≪制度等一覧≫

No.	制度等	主体	概要
1	茨城県環境アドバイザー制度	茨城県	県内の市民団体･学校･PTA･こども会等が主催する環境問題に関する講演会･学習会･観察会に対し、環境アドバイザーを無料で派遣する制度。 地球環境（地球温暖化･大気･水質･土壌･廃棄物リサイクル･再生可能エネルギー･海洋プラスチック)、生活環境、環境パートナーシップ、自然環境等の専門講師が登録。
2	環境教育教材の案内	環境省	気候変動問題や脱炭素社会の実現に向け、地球環境問題について理解を深め、環境を守る行動を育成するために、小中学校向けの環境教育教材「みんなで変える地球の未来～脱炭素社会をつくるために～」を環境省が作成。 授業だけでなく、自らが環境を学べるような教材。
3	小学生向け環境学習プログラム「キッズミッション」	茨城県	小学生が、日常生活と身の回りの環境との関係を知り、環境を大切にしていくためにどうしたらよいかを学び(考え)、環境に配慮した生活を６日間実践し、環境にやさしい取組を継続させ習慣化していくことが目的。
4	守谷市環境出前講座	守谷市	環境問題について理解と関心を深め、環境に配慮した行動に結び付けられるよう、市内小・中学校や事業者等を対象に、市職員を講師として派遣し講座を実施。

●生徒が環境に関する情報を取得するうえで有効と考えられる取組について

・一部の小学校では、自然環境を意識した環境保全や食育の一環として、米作りを授業で行っている。
・環境学習については教室で学ぶよりも、実際に体験してもらうことの方が生徒たちの意識に定着しやすい。
・周辺環境が米作りにどのような影響を及ぼすのか等、環境学習につなげることを目的として行っているかは明確となっていない。
・先生の配置状況や立地、生徒規模等により米作りを実施できる学校とできない学校が発生している。環境学習の面からみると全学校に取り組んでもらいたいと考えている。
・教職員に頼らなくても、生徒たちは環境省のオンデマンド動画等を活用すれば、正しい知識を取得することができる。
・生徒たちが環境基本計画を見ても環境への興味を持つ可能性が低いため、概要版等の読みやすい冊子を配布することが有効と考えられる。

●教職員に対する環境教育の実態とその方法について

・教職員は現状、通常業務をこなすだけでも相当な労力であると考えられるため、他の仕事や研修等で環境学習を受けることは、難しい状況になっている。
・環境問題は身近な問題であるがゆえに、教職員が正しい知識を持ち合わせていないまま、生徒に授業をしている場合がある。
・専門家を招き正しい知識で講義してもらう必要がある。
・生徒たちに興味を持ってもらう前に、まずは教職員に環境への関心を持ってもらうことが重要だと思う。デジタル化が進んでいる傾向を活かし、短い動画等で教職員への興味も引けると思う。